

新入生の皆さんへ

『知的生産活動を支援する情報発信型図書館』

図書館長 下村 秀則



四月に図書館長に就任いたしました下村です。

新入生の皆さんは、そろそろ大学の授業にも慣れて少しは余裕が出てきた頃かと思いますが、いかがでしょうか。大学受験をめざしてひたすら教科書や問題集に取り組んでいたときの勉強とは大きく異なり、大学では与えられた課題をこなすだけでなく、問題意識を持って自分で課題を発見し、それに挑戦することが求められます。また、それに伴ってリサーチやプレゼンテーションの機会も増えることと思います。

その際に、さまざまな課題についての情報を得る手段として、インターネットを利用することが当然多くなるかと思えます。ネット上での検索は、確かに大変便利です。しかし、言うまでもなく、ネット上の情報は発信元の疑わしいものや内容的に正確さを欠くものもあり、すべてを参考資料として利用することはできません。また、最新で詳しくはあっても、都合の良い情報だけを取り入れると、偏った見方を助長してしまいます。情報の真偽を見極め、問題の本質を的確に把握し、大きな視点に立って妥当な判断を下すためには、やはり書物や雑誌の助けを借りる必要があります。

まさに、そういった要望に応え、皆さんの知的生産活動を支えているのが、大学図書館なのです。ここでは、紹介かたがた簡単に本学図書館の特色について二三触れてみたいと思います。

まず、本学図書館は、本館（7号館1、2F）とアジア関係図書館（9号館2F）からなっています。所蔵する図書は50万冊を超え、学術雑誌は約4,000種類（継続中のものは約2,500）に及んでいます。まさに、知識の宝庫です。外国語大学にふさわしく、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、日本語、イタリア語などの専攻言語をはじめ、ロシア語、アラビア語、オランダ語など、多岐にわたる言語圏の言語・文化・地域研究のための資料が豊

富に集められています。今年は『源氏物語』の千年紀に当たっていますが、本学図書館には12言語（英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、イタリア語、ロシア語、オランダ語、ハンガリー語、スウェーデン語、チェコ語、クロアチア語）に翻訳された『源氏物語』が所蔵されています。これなどはまさに本学図書館の特色と言えるものです。ちなみに、『源氏物語』はこれまでに18言語に翻訳されていて、今年の10月には新たにトルコ語訳が加わるということです。皆さんも、是非一度、手に取ってご覧になって下さい。

次に紹介するのは、本学図書館が独自に作成している蔵書の主題別データベースです。これは、利用者の皆さんがより短時間に目当ての本を探し出すことができるように、言語・地域研究関連、世界文学関連、日本文学関連、授業対応関連など12のカテゴリー別に、30の主題について作成された図書検索データベースです。中をのぞいてみると、「世界の言語と国際地域研究」「あなたに役立つ言語圏別資料検索」「世界の言語資料を探る」「今、日本と世界は」「世界を感動させた作家たち」「国別にみる児童文学」「世界で読まれる源氏物語」「論文・レポートなどを書くための資料DB」など、いずれもすぐに役立つ興味深いテーマについてデータベースが作られています。皆さんの自宅からでも本学図書館ホームページを通して手軽にご利用いただけます。

この他に、本学図書館には世界の貴重書が数多く所蔵されています。それらについては、図書館ホームページの「スペシャルコレクション」を開いて、どのようなものがあるのかご覧になって下さい。折々に展示会を通してご覧いただく予定ですが、今年は日仏交流150周年記念稀覯書展示会を11月に開催します。どうぞご期待下さい。

しもむら ひでのり（教授・英語教育）